

「施策」総括票

施策展開	2-(3)-才	保健衛生の推進	
施策	②感染症対策の推進		112頁
対応する 主な課題	○感染症の発生予防、まん延防止のため、予防接種の推進、感染症発生時の早期探知、県民への情報提供、感染症拡大防止体制の強化が必要である。		
関係部等	福祉保健部		

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
1	結核対策	5,950	順調	○結核患者の直接服薬支援(以下地域DOTS)の推進のため、患者訪問、地域DOTSカンファレンス、地域DOTS評価コホート検討会及び研修会(8月)を開催した。(1)
2	感染症予防対策	55,338	やや遅れ	○新型インフルエンザ等発生への予防啓発や医療体制の強化を行った。また、エイズ対策強化のため、夜間検査、治療拠点病院研修等による検査実施体制の強化や相談、普及啓発を行った。エイズ抗体検査件数は2,233件と、計画値の2,500件には達していないためやや遅れとなった。(2)
3	予防接種の推進	762,828	順調	○予防接種の実施率向上のため、市町村への指導を行うとともに、市町村が実施する子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンの接種事業の補助を実施した。(3)

様式2(施策)

Ⅱ 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	結核患者罹患率		18.7人 (22年)	21.6人 (24年)	減少	△2.9人	18.2人 (H22年)
状況説明	<p>診断の遅れの指標として「初診から診断が1ヶ月以上の患者の割合」を上げたが、昨年度は改善している。地域DOTSの評価の指標として「肺結核喀痰塗抹陽性患者の治療成功率」と「全肺結核患者に対する治療失敗・脱落率」を挙げている(平成23年の治療成功率53.7%、治療失敗・脱落率3.5%)が、現在は横ばいである。全国と比較すると、いずれも良好な値となっている。</p>						
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	麻しん予防接種率		92.2% (22年)	94.0% (24年)	95.0%	1.8ポイント	95.6% (22年)
状況説明	<p>麻しんの流行を阻止するためには予防接種率が95%以上必要とされている。沖縄県の接種率は漸増傾向にあるが、95%には達していない状況となっている。</p>						

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
新登録患者のうち60歳以上が占める割合	67.3% (22年)	69.2% (23年)	67.4% (24年)	→	68.1% (23年)
潜在性結核感染症患者数	45人 (22年)	94人 (23年)	146人 (24年)	↗	10,046人 (23年)
初診から診断が1ヶ月以上の患者の割合	29.5% (23年)	21.2% (24年速報値)	—	↗	22.8% (23年)
肺結核喀痰塗抹陽性患者の治療成功率	60.4% (22年)	53.7% (23年)	—	↘	55.4% (H22年)
全肺結核患者に対する治療失敗・脱落率	5.3% (22年)	3.5% (23年)	—	↘	6.4% (22年)
HIV抗体検査数	2,464 (22年)	2,316 (23年)	2,233 (24年)	↘	平均 2,181 (24年)
10万人あたりのHIV抗体検査数	176.9 (22年)	163.9 (23年)	159.4 (24年)	↘	平均 76.2 (平成24年)
麻しん予防接種率	92.2% (22年)	94.2% (23年)	94.0% (24年)	→	95.3% (23年)

様式2(施策)

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

- ・潜在性結核感染症数は、年々増加しているが、平成23年10月12日付厚労省健康局結核感染症課長通知により、潜在性結核患者も含めた全結核患者に対し地域DOTSを積極的に実施する必要があるため、現在のマンパワーで行っているDOTSの方法のあり方を検討する必要がある。
- ・エイズ抗体検査数の減少は、県の南部保健所が施設改築に伴い2012年9月3日～12月17日までの間、エイズ抗体検査を一時休止したことによるものと考えられる。
- ・予防接種の実施主体は市町村であるが、広域かつ専門的な事業であり、予防接種率の向上を図るためにも、引き続き県が指導・助言及び普及啓発を行っていく必要がある。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

- ・結核患者は、60歳以上が半数以上を占めている(参考データ参照)。高齢者は、すでに結核に感染している者が多く、発病リスクも高い。
- ・エイズ対策については、患者のほとんどが男性同性愛者であることから、このような個別施策層を含めた対策強化に取り組む必要がある。
- ・本県のエイズ抗体検査における10万人あたりの検査数は、全国平均の約2倍で高く、3年連続全国で1位であった。

Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

- ・結核対策として、メールの自動配信システムを活用した地域DOTSを、希望する患者へモデル的に実施するとともに、薬局等と連携し、地域DOTSシステムの拡大を図る。
- ・高齢者への結核対策については、患者を早期発見し、早期の治療へ結びつけ重症化を防ぐため、施設職員や医療機関への結核に関する知識の普及を図ることを目的とする研修会を開催する。
- ・エイズ対策において男性同性愛者等の個別施策層については、那覇市保健所及び那覇市のコミュニティセンター(ナンクル;運営はエイズ予防財団)と協力して、広報活動、検査の普及啓発活動を行っていく。
- ・予防接種支援として、市町村従事者に対する研修会等を実施するなど、引き続き市町村への指導・助言及び普及啓発を行う。